資料２

「宇治市水道事業ビジョン」策定について（諮問の背景）

水道ビジョンとは

《水道ビジョンとは》

水道の現状と将来見通しを分析・評価し、水道のあるべき将来像について、すべての水道関係者が共通目標を持って、その実現のための具体的な施策や工程を包括的に示すもの

《水道ビジョンから新水道ビジョンへ》

平成16年６月：厚生労働省は「水道ビジョン」を策定

水道の事業環境が大きく変化

- 給水人口と給水量の減少
- 水道施設の更新需要の増大
- 東日本大震災をふまえた危機管理対策

平成25年３月：「安全、強靭、持続」の３つの観点により、「新水道ビジョン」を新たに策定

50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示すると共に、その理想像を具現化するため、今後取り組むべき事項や方策を明示

「新水道ビジョン（平成25年３月策定）」

【基本理念】地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道

[安全な水道]**安全**

全ての国民が、いつでもどこでも、水をおいしく飲める水道

[強靭な水道]**強靭**

自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道

[水道サービスの持続]**持続**

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道

現「水道ビジョン」の概要

《宇治市地域水道ビジョン》

計画期間：平成22年度～平成31年度（10年間）

目標年次：平成31年度

厚生労働省「水道ビジョン（平成16年策定、平成20年改訂）」に準拠し、「安全で、安心して暮らせる水道水の供給」という宇治市の基本理念と「安全、安定、持続、環境」の４つの基本方針に基づく24の施策を設定

《施策体系と事業実施計画》

事業実施計画は水道ビジョンの基本施策を実現するための具体的な取り組みを定めたもの

宇治市地域水道ビジョン

基本理念『安全で、安心して暮らせる水道水の供給』

基本方針1：安全で安心できる水道

【水質管理の充実】
1）原水水質の管理
2）水質管理体制の充実
3）貯水槽水道の管理

基本方針2：お客さまに信頼される水道

【水運用の安定】
1）水資源の有効活用
2）京都府営水道の受水計画
3）水道施設の再編成
4）簡易水道・飲料水供給事業の統合
5）基幹施設の更新
6）老朽管路の更新
7）鉛製給水管の解消

【災害対策の充実】
1）管路情報の管理
2）水道施設の耐震化
3）水道管路の耐震化
4）災害時に機能する体制の構築

基本方針3：将来も安定が保てる水道

【効率的な健全経営】
1）民間委託の推進
2）財政基盤の強化
3）水道料金制度の検討

【組織体制の強化】
1）人材の育成と活用
2）技術の継承

【お客さまサービスの向上】
1）利便性の向上

基本方針4：環境にやさしい水道

【省エネルギーの推進】
1）エネルギー削減計画
2）クリーンエネルギーの導入

【環境負荷の低減】
1）水道工事のコスト縮減
2）再生資源の有効利用

→ 事業実施計画

計画期間の延長

《計画期間延長の背景》

京都府営水道の料金改定が令和２年度に予定されていることなどから、現「水道ビジョン」（宇治市地域水道ビジョン）及び「第３次事業実施計画」の計画期間を１年延長

《京都府営水道の料金改定》

料金算定期間は5年間（令和2年度から令和6年度）

二部料金制

- 建設負担料金（水源開発や施設整備の経費等を負担する料金）
  （現行）44円／㎥　→　（改定案）55円／㎥
- 使用料金（実際の使用水量に応じて支払う料金）
  （現行）20円／㎥　→　（改定案）28円／㎥

水需要の約7割を京都府営水道で対応している本市にとって、今後の水道事業経営に大きく影響

《令和２年度事業実施計画の概要》　　（別冊資料参照）

令和元年度からの引き続きの事業であり、施設及び管路の更新事業が主となる。概算事業費は約13億円の見込み

施策	事業名	令和2年度概算事業費
1）水道施設の再編成	浄水場統廃合事業	320百万円
2）基幹施設の更新	宇治浄水場施設整備事業	295百万円
3）老朽管路の更新	老朽管更新・耐震化事業	200百万円
4）鉛製給水管の解消	鉛製給水管解消事業	50百万円
5）水道施設の耐震化	主要配水池耐震化等整備事業	227百万円
6）水道管路の耐震化	基幹管路耐震化事業	208百万円
合計		1,300百万円

《現在の施設耐震化率》

耐震化の状況	平成30年度末 実績	令和元年度末 見込み	令和元年度 目標値
浄水施設の耐震化率 【全国平均　（H29）：29.1%】 【京都府平均（H29）：52.6%】	0.0%	約74%	74%
配水池の耐震化率 【全国平均　（H29）：55.2%】 【京都府平均（H29）：46.5%】	22.3%	約38%	38%
基幹管路の耐震適合率 【全国平均　（H29）：39.3%】 【京都府平均（H29）：36.4%】	24.1%	約24%	24%

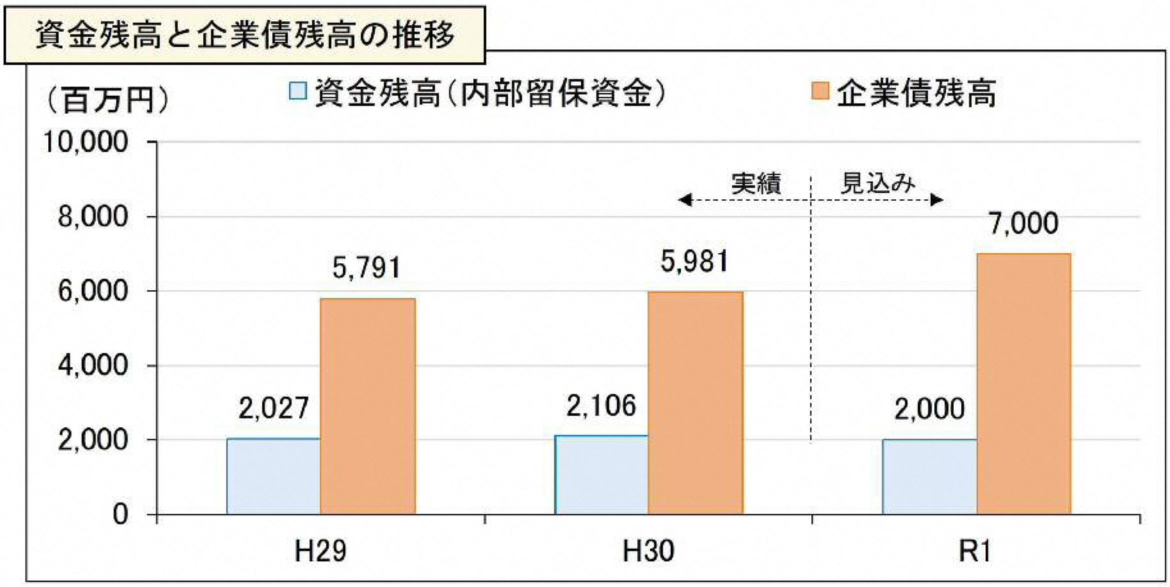
今後の財政収支の見通し

《資金残高（内部留保資金）と企業債残高の推移》

現在約20億円ある資金残高は、今後減少見込み。一方、企業債残高は、水道施設の更新・耐震化の実施に伴い増加見込み

資金残高（内部留保資金）：減価償却費などの現金支出を伴わない支出や利益によって、企業内に留保される自己資金

企業債残高：建設改良事業等に要する資金に充てるための借り入れ残高



今後必要となる、水道施設に関する投資の見通しや、投資の支出を賄うための財源の見通しを試算した計画が必要

経営戦略の策定

《経営戦略とは》

人口減少に伴う料金収入の減少や施設の老朽化に伴う更新需要の増大など、水道事業を取り巻く経営環境の厳しさの中で、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画

次期「水道ビジョン」の策定

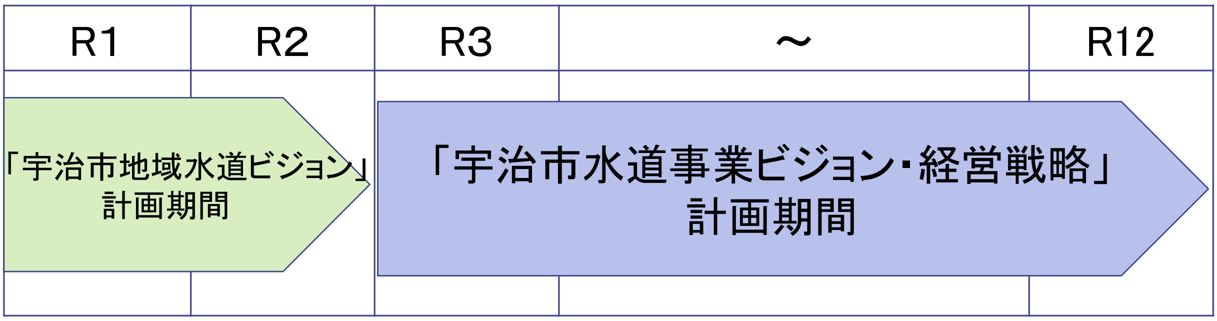
《宇治市水道事業ビジョン・経営戦略》

計画期間：令和３年度～令和12年度（10年間）

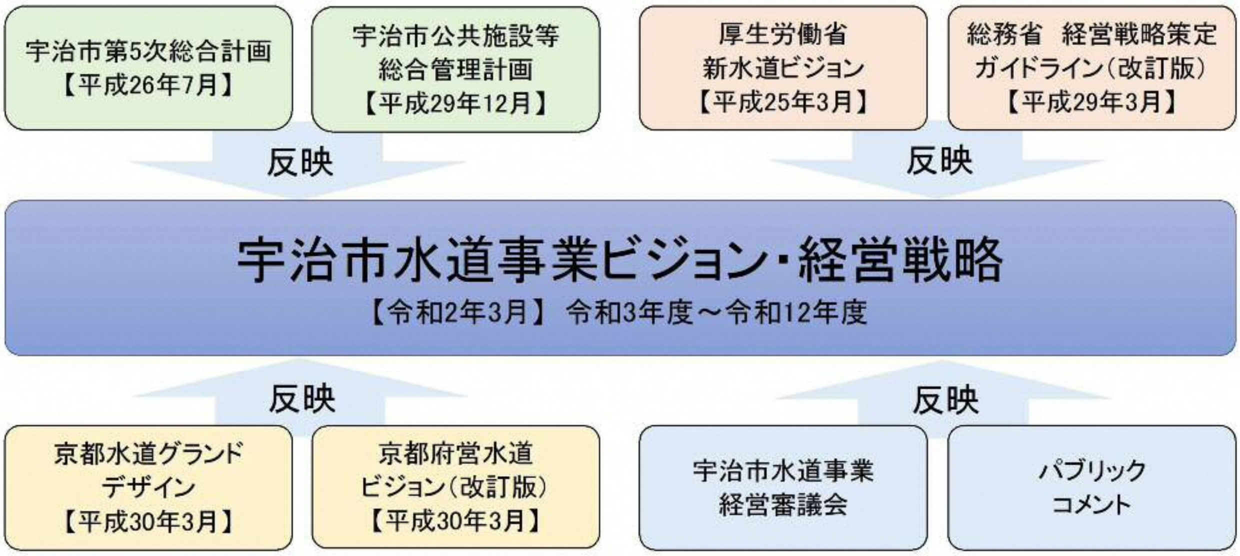
目標年次：令和12年度

厚生労働省「新水道ビジョン（平成25年３月策定）」に準拠

総務省「経営戦略策定ガイドライン改訂版（平成29年３月通知）」に基づき、経営戦略を包括する内容



《 次期「水道ビジョン」の位置付け 》

次期「水道ビジョン」は、国の指針や宇治市の「総合計画」、「公共施設等総合管理計画」等に基づいたものとする。

本審議会及びパブリックコメント等の市民意見を反映させて作成